

平成 26 年度 第 1 回 練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 26 年 8 月 28 日（木） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 25 分
- 2 場所 生涯学習センター 第一教室
- 3 出席者 漆澤委員、川井委員、中島委員、岡本委員、長富委員、田村委員、尼子委員、小澤委員、岩田委員（練馬区教育委員会社会教育主事）
（練馬区）文化・生涯学習課長
（事務局）生涯学習センター所長、副所長、主事
- 4 欠席者 井藤委員、津久井委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 次第
 - (1) 委員委嘱
 - (2) 文化・生涯学習課長あいさつ
 - (3) 委員紹介
 - (4) 文化・生涯学習課事務局職員紹介
 - (5) 正副座長選出
 - (6) 議題
 - 平成 25 年度事業結果報告について
 - 平成 26 年度の事業結果報告について
 - 平成 26 年度事業計画について
 - その他
- 7 配布資料
 - (1) 資料 1 平成 26・27 年度練馬区立生涯学習センター運営懇談会委員名簿
 - (2) 資料 2 平成 25 年度 事業結果報告
 - (3) 資料 3 平成 26 年度 事業結果報告
 - (4) 資料 4 平成 24・25・26 年度 生涯学習センター施設利用実績
 - (5) 資料 5 平成 26 年度 事業計画（案）
- 8 会議の概要
 - (1) 委員委嘱
<所長> それでは定刻になりましたのでただいまより平成 26 年度第 1 回の生涯学習セン

ター運営懇談会を始めさせていただきます。

私、所長の百丈でございます。今日司会進行努めさせていただきます。どうぞよろしくをお願いします。

本懇談会、平成 24 年 4 月 1 日に組織改正がございまして生涯学習センターになった段階で、生涯学習センター運営懇談会ということで公民館運営審議会より移行して開催されたわけでございます。

24 年度の委員で 25 年度と 2 年間終えまして、26 年度、3 年目ということでございます。要綱に定めております任期が 2 年ということで、この 4 月 1 日から切り替えということでございます。各委員の方におかれましては継続のご意向の確認をさせていただきました。といいますのも要綱では「再任を妨げない」ということもございまして、そういうことで確認をさせていただきますして、1 名の委員の方を除きまして、再任とさせていただきます。

また公募委員につきましても昨年 12 月に募集し、基本的に 4 名の枠でございましたけど 3 名の方に委員をしていただくということで、結果的に定員 12 名のところ 11 名の懇談会委員ということでございます。

開催にあたりましてはじめに委員の委嘱をさせていただきたいと思います。机上に委嘱状を置かせていただいております。それをお渡しすることによりまして委嘱とさせていただきます。

なお本日井藤委員、そして津久井委員がご欠席でございます。この方々につきましては後ほどご送付申し上げて委嘱させていただきたいと思っております、どうぞよろしくをお願いします。

(2) 文化・生涯学習課長挨拶

< 所長 > それでははじめに小金井地域文化部文化・生涯学習課長からご挨拶申し上げます。

< 課長 > 文化・生涯学習課長の小金井でございます。

本日はお忙しいところセンターの運営懇談会、ご出席いただきまして本当にありがとうございます。

ただいま所長の方からお話ありましたとおり、昨年度、一昨年度という形で生涯学習センターの運営懇談会を開催させていただき、各委員の方からのいろいろなご意見を頂戴いたしました。

ご意見を反映して「わいわく倶楽部」ですとか様々な名称変更をしながら事業展開来ているのかなと思ってございます。

生涯学習センターとして、公民館から名称変更しただけではなくて、今の社会に合った生涯学習センターの事業ということで、ご意見を頂いたものが反映されてきているかなと思ってございます。

また、新しい前川区長の下、区政もスタートしてございます。

様々な意味で「改革練馬」ということを旗印に挙げてきてございますので、いろいろな点で新しい視点を持つとかあるいはリアルなニーズを掴むとかですね、そういうことで訓示をいただきながら進めているところでございます。

生涯学習センターも、もう建て替えてから30年を迎えます。また分館という形で高野台の方にも「生涯学習センター」の名を冠する施設を開設してございますので、是非、そういった施設を今後区民の生涯学習と文化のためという2つの視点で運営の方向性を決めながらやって行きたいと考えてございます。

そのために、今年度、生涯学習と文化の計画、5年先くらいの計画を立てようということでこれから動くというところでございます。そういったような動きも睨みながら、昨年度に引き続き忌憚のないご意見をいただきながら、生涯学習センターの運営の応援をしていただきたいというふうに思っておりますのでぜひよろしくお願いいたします。

(3) 委員紹介

委員紹介（資料1）

(4) 文化・生涯学習課事務局職員紹介

職員紹介

(5) 正副座長選出

< 所長 > 今回はじめての懇談会でございます。生涯学習センターの運営懇談会の詳細につきまして、ここでご説明するところでございますけども、田村委員以外の委員につきましてはご継続ということもございますので省かせていただきます。新たに委員をお願いしました田村委員には事前に一部資料をお送りしておりますのでよろしくご了解いただきたいと存じます。

それでは続きまして座長の選出をお願いしたいと存じます。運営懇談会設置要綱第3条第2項の規定によりまして、座長は委員の互選により選出するというところでございます。どなたかご推薦ございますでしょうか？

< 委員 > 前回同様、川井様にお願いしてはとは思いますがいかがでしょうか？

（拍手）

< 所長 > それでは中島委員からご提案いただきまして、他のみなさまから拍手をいただいたということでございますので生涯学習センター運営懇談会座長に、川井淳子委員が選出されたということでございます。

それでは次に運営懇談会設置要綱第 3 条第 2 項の規定によりまして、副座長は座長が指名するという事になってございますので、委員の中よりおひとり副座長をご指名いただきたいと思います。

<座長> 大変重い役をお引き受けしますので、長富さんにぜひやっていただければありがたいと思っておりますが、みなさまいかがでしょうか。

(拍手)

<所長> それでは座長、副座長が決まりましたので、お二人から一言ずつ就任のご挨拶をお願いしたいと思います。

<座長> 私もこの委員を長くやらせていただいたので、だいたい今までの流れは少しわかるような気がします。ただやはりここへ来て区長さんも変わり、それから生涯学習の中に、文化ということもかなり入ってますね。そのことについても、委員さんの人数は多くはございませんが、経験豊かな方々でいらっしゃいますので、いろんな意見を出していただいて、練馬区全体の生涯学習、そして文化について前向きにみなさんのご意見を入れていただきたいと思いますと思っております。よろしく申し上げます。

<副座長> 今、座長の方からお話ございましたとおりに、私も多少年数は重ねていますが、座長のお手伝いがいくらかでもできればと思っております。よろしくどうぞお願いします。

<所長> それでは正副座長が決まりましたので、今後の議事進行につきましては座長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(6) 議題

<座長> さっそくでございますが議事に入る前に本日の出席人数の方をよろしく申し上げます。

<副所長> 本日の出席いただいております議員の数、9名でございます。なお、井藤委員、津久井委員からは所用により欠席のご連絡をいただいております。

併せて 2 点程連絡をさせていただきたく存じます。本日、傍聴希望者はございませんでした。それからそれぞれお席の方に次第のページだけ配らせていただいております。事前に配布をさせていただきました資料の方に誤記がございましたので 1 ページ目だけ差替えということでよろしいかと思っております。以上でございます。

<座長> ありがとうございました。では議事に入っていきたいと思います。議題 1 のところでございますね、平成 25 年度事業結果報告ですね、事務局の方からしていただきたいと思います。よろしくどうぞ。

<所長> それでは平成 25 年度の事業結果についてご報告させていただきます。

所長より資料 2 をもとに説明（内容省略）

<座長> 25 年度の事業報告についてご質問ございませんでしょうか？

25 年度事業結果報告について質問ないようですので、26 年度の事業結果報告をお願いします。

<所長> それでは平成 26 年度において既に開催いたしました事業について、その結果をご報告させていただきます。なお今年度からほとんどの事業につきまして満足度アンケートを実施してございます。その結果は真摯に受け止めながら次回事業の参考に思っております。よろしくをお願いします。

所長より資料 3・4 をもとに説明

<座長> 今、大変多くの事業が報告されましたが、いかがでございましょうか？

さっきからかなりの事業が入ってきておまして、これだけ生涯学習ということにみなさん関心をお持ちと、館の方の努力が入っておりますし、サークル展など私も経験しましたけれど、それぞれものすごく工夫をなさっていたと感じております。みなさまいかがでございましょうか？ やはりそういうご意見を出していただいてまた次に反映していただければとは思いますが。

<委員> 25・26 年度と合わせてということで何点かご質問いたします。まず、学びふれあい講座と寿大学ですが、主に、日中の時間で平日やられているとは思いますが。対象となる年齢というのは、学びふれあい講座等はシルバーの方とかで、その前の年代の方とか主婦の方の参加はあるのでしょうか。

<所長> 基本的には寿大学がございまして、なるべく学びふれあい講座は一般の方ということで時間も曜日も様々なところを狙っているつもりでございます。

基本的には講師をお願いする先生方にですね、今までのご自分がされてきた講座の中でどういった方たちが参加されているのかということの確認をしながら、曜日であった

り時間を決めているようなところがございます。

< 委員 > 中野区でも同様に生涯学習大学という講座があり、50代の方から60代以上の方まで、約2,000人くらいが参加できる、学年制の事業があります。その事業は昼間やってる時間帯があるので、学びふれあい講座も同じような対象者であれば一緒にやることもできないかと思いました。

「(仮称)ねりま区民大学」が来年4月に人材育成活用事業として出来ませんが、「大学」の名称はついていますが一般教養的な講座は行わない予定です。そのため、一般教養的な部分はこちらに期待するものがあるのではないかと思います。

次に、19ページにある視聴覚事業でございます。子ども映画会ですが、これは総合教育センターでやっていた事業がなくなり、生涯学習センターのみで行われていると思います。

私は、以前、練馬公民館に7年勤務しまして、ホールで映写機を回していたことがあります。その当時は子どもも結構いっぱい入ってました。入場者数を見ますとホールでなくても、例えば視聴覚室とか第一教室とかを使ってやることも可能なのではないのでしょうか。300席規模のホールというのは練馬区内では少ない施設ですので、有効に活用するという意味で検討の余地はあるのでしょうか。青少年課では人形劇を図書館で実施していますが、小さい子どもをゴザの上に座らせると結構、観ることができます。この部屋のように椅子並べるとどうしても54人しか入りませんが、そういった形で運営するのもひとつのやり方でもあるのかなと感じました。

それから、以前にもお話をしたこともありますが、情報教育においてはスマホの問題が社会的課題になっています。子どもたちの中で、LINEがいじめに繋がっているなど、情報のあり方とか、判断力を身に着けるってことが非常に大事になってきていると思います。また一方で、高齢者の方もいろいろな詐欺に遭ってしまうということで、情報教育については高齢者を含めて成人の方に対しても非常に重要な課題だと考えています。そのようなことも今後の事業計画の中では入れていったらいかがでしょうか。

次に、生涯学習センターの利用実績資料23ページになりますが、夏休み期間の利用はいかがでしょうか？

< 所長 > 基本的にはやはり夏は落ち込みます。特にお盆の時期ですと帰省される方も多い、また高齢者もいらっしゃる団体もかなり多くございますので、やはり日中の外出を控えていらっしゃるというところもあるのではないのかなと思います。

なるべく主催事業も夏には基本的にはあまり開催してございません。特に昔ですと30度が暑いなといった時代があったと思うのですが、今はもう34度~35度で暑いねという時代でございますので、その時間に設定しづらいというのがございます。また夜間はどうかだということでございますけれど、基本的には8月には主催事業はあまり入れ

てございません。

やはりその時に利用率がかなり落ちているのは事実でございます。特にお盆の時期には2団体、3団体しか使わないという日も中にはございます。ただ今の気候状況の中で無理に使えということもまた、事業活動では厳しい状況かなとは思っております。

<委員> 次の懇談会がおそらく3月ということで、事業計画が出来上がる前ということ、お話を差し上げました。

先日8月9日に、東京都の教職員研修センターで子どもたちを対象とした出張講座というのが開催されていまして。内容はCSRといいますが、企業がいろいろな事業を無料で実施するというもので、だいたい20団体くらい集まってやっていました。CSRというのはコーポレート・ソーシャル・レスポンスビリティという、「社会的責任」という訳になりますけど、「企業も営利活動だけではなく社会に対して貢献するなどの責任がある」ということで、子どもたちに企業の蓄えた技術や知識を講座形式で学ぶというようなものです。

青少年課でも子ども対象事業をさらに考えていかなければなりません、私も同様の企画について2年くらい前から考えています。施設を持っていないのでなかなか開催はできずしておりますが。

この東京都が主催した事業に対して、300名のところに1万人の応募がありました。それだけ、いま、親御さんはいろいろな体験を子どもたちにさせたいと、子どもたちもそれを体験したいということなんだろうなと思ってます。参加団体は、JICA（青年海外協力隊）、JAXA（宇宙航空研究開発機構）、ワコール、明治乳業などで、実験や授業などのほかに、ボランティアの実践などの話や子どもたちのグループワークなど様々で、ほとんどが一切無料で実施されていまして。

区の財政が厳しい中で、このようなものを活用した事業というものがどんどん展開されていくべきだろうなと考えています。生涯学習センターの分館も出来たことありますので、私どもの青少年館などと連携しながらやっていくということもご検討いただければなというふうに思っております。

<座長> いろんなご意見いただきましたね。ここだけでやるってのは本当に限られてきますよね。

30年も経った建物ですから使い勝手も大変悪いこともありますね。そういう中でいかにするかって。

映画の場合に少ない人数だとかはございましたけど、私もあちこちの映画館に行ってみると、とても心地よい座り心地なんですね。ですから、ああいう立派なお椅子な中でないと、ここの教室的なところで果たして来るのかなということもひとつございましてね。

夏は確かにものすごく暑かったですから無理無理引っ張り出すというか、映画も一か月前に封切りになったものがテレビでやったりしてるので、そこをいかにここへ来てみなさんのいい事業にするかってすごく難しい中で、みなさんで協力し合って分館から何から手を携えて、子どもの、今問題がすごくあります。テレビでも事件が多いですからね、大人が力を合わせてやっていかなければいけない時代だと思いますので、みなさんこれについてどうでしょうか、一言ずついただきましょうか？

<委員> 私、映画は残念ながらあまり見る機会ないんで。でもやっぱり子どもと親子で来てもいいような、ここに載ってるような題名見ると見てもいいなとそういうふうに感じます。先ほどおっしゃいました、定員だとか会場だとかはまた別の問題だと思いますけれど。

<座長> そうですね。人が少ないからというよりは、今の時代はほんとにいろんなところで参加出来るものもあってなかなか難しいところがございますが。他の方、何か映画に限らず今までの事業報告でいかがでございますか？

<委員> この6月にサークル文化祭、作品展をさせていただいたんですけど、今年はどうですか、子どもの参加が多かったんじゃないかなと。例年に比べてですね。

これは私の感じなんですけど、何故だろうと考えた時にひとつはですね、ポスターの中にくじ引きがありますよ。それからもうひとつは映画と併設。所長のご尽力で子ども向けの映画もあったし大人向けの映画もあった。まあそういうふうなことで例年に比べたら子どもが多かったのかなと。

ということはどういうことかということ、やはり先ほどのお話が課長さんからありましたように文化というものを考えていく、あるいは年齢の層というものを広げていく、そういうことを考えたときに、いろいろな層が来るような仕組みというのが大事だと。そのためには今までのような純粹培養的な、サークル文化祭ならサークル文化祭だけでクローズしてやりましょうというのではなくて、それと映画だとか、子どもが好きそうなくじ引きだとか、何かブレンドするようなそういうことによる効果というものもひとつとしたらあったのかなと。

ですから今ここでたくさんの講座があります、これ大変素晴らしい。そこにちょっと塩をちょっとかけるようなことも、この中に。これから先ですけど何か考えていって、例えば「わいわく」ですか、そういう講座の中に何かポコッとひとつ、ちょっとひとコマ入れるとか。何かそういうものを入れる。コーヒーでも9割よりブレンドの方がおいしいですからね。何かそんなことも出来る効果があるのかなという印象を受けましたね、今回のサークル文化祭では。

<座長> ほんとに、みなさんのコラボと言うんですかね、これに限ってこれだけじゃなきゃいけないんじゃないかと、これにこれを足してこれを携えてっていうやり方をしてかないと駄目なんじゃないかなって。それは官だけにおんぶに抱っこではなく、我々もそれに対してご相談をしながら一緒になってやって行くってことが大事なんじゃないですか。

<委員> ちょうど子ども映画会のことで伺おうと思ってたのですが、今年度のところは子ども映画会がすべて記載が漢字混じりの表記になっていて、昨年度のところはすべてひらがな表記になってるのですが、これは今年度になって表記が変わったのか、こちらの資料を作るにあたってのものなのかということをもまず 1 点教えていただきたいなと思った次第です。

<所長> 基本的には漢字を使っても必ずふりがなを振っておりますし、チラシにはあらすじ等全部入れてありますのでその辺は変わってないと思います。

<委員> ありがとうございます。

その点と、先ほど来、みなさま方から出てる、ホールを使わなくてもいいのではないかということも含めて今年度の資料を見せていただいて、様々な活動に満足度アンケートをつけていただいたということで、多くの事業で参加している方がとても満足をして参加していらっしゃるんだということが非常によくわかりました。この子ども映画会であるとか名画鑑賞会なんかでも、もしかしたら来る方にはお手数なのかもしれないですがアンケートを取ってみるっていうことをやってみると、次の作品選定にも繋がる部分があったり、ホールでないところでもいいですかみたいなことも含めて、アンケートで来て下さる方の様子を伺うっていうようなことがあってもいいのかなというふうに思いました。

<座長> ありがとうございます。いろんなご意見を出していただきました。他にございませんでしょうか？

<委員> ひとつよろしいですか？ センターの施設利用実績のところなんですけれど、先ほど所長のお話では幾分ちょっと減っているというふうにおっしゃったんですが、反面利用する立場のわたくし共は、練馬区のここだけじゃなくて練馬区の全体からいっても、なんかなかなかその抽選で部屋を取ることが出来なくなってきたんです。難しくなってきたんですね。ですから、これも前回の時に確か所長からご説明あったと思いますが、多分曜日と時間に偏ってるんだと、偏重があるんですよっていうことを確かお聞きしたような気もするんです。

やはり曜日と時間帯というものの混み具合というのか、それから反対にこういう曜日だったらまたこういう時間帯だったら空いてるんですよってというようなことがなんかわかる方法がないのかなというのがいつも問題なんですね。

というのは、確かに今インターネットで予約するわけなんですけども、そういう見方は出来ないんですよ？ この部屋は何月何日のどこだったら空いてますよっていうのはないんですよ。1回1回こう入れてみないと分からないっていうことがあるんですから。

だからこの利用率をこう見ていくと、こんなに空いているのにどうして使えないかな、取れないのかなっていうのがよくあるものですから。

<副所長> まず今年度の状況につきましては、4月から7月までのところ今資料を作成し、曜日別・時間帯別の利用率というものは出せるような状態を所の中では作りつつございます。ですから、3月の時点では2月までのトータルをですね、曜日別部屋別利用率の資料を作成して報告してゆくことが出来るかというふうに思います。

それから練馬区全体でございますけれども、こちらは28年1月にリニューアルし、システムを全面的に入れ替えていくということで現在検討を進めているところでございます。その検討段階の中でも、使い勝手のいいシステムを作っていくことがテーマであるというふうに私共作業部会レベルでも強く認識をし、またそれに向けた業者選定をしていくという材料をいま整理しているところでございますので、そちらまた何らかの形でご報告出来るかと思えます。

<座長> ありがとうございます。

<委員> これ両方がうまくいくってことは、私絶対出来ないって思うんです。あ、絶対って言葉使っちゃいけませんけど、出来ないと思うんですね。

というのは、サークルの会員さんたちが「自分たちがこの日がいい」火曜なら火曜って言うとその日ばかりを他の方も言うし、館の方は塞がってしまえば火曜日の希望がいくつもあるとそれで駄目になる。で、じゃ水曜はって言う「水曜日は私はあれをやってます、これをやっています」、じゃ木曜はって言う「また次の人があれこれってみんな勝手なこと言うんですね。ですからこれどうやったらうまくいくか私もいつも分かりません。

<座長> ありがとうございます。利用する側、それから今副所長がおっしゃったように28年度までに空いているところの見方とか出してくださる。だから今度使う側がそこをよく考えて、今おっしゃったように「絶対ここしか出来ないのよ」っていう取り方は、ちょっとこういういろんなことが時代的にやる方が多くなってくると、既得権益みたいにね、

第一、第三はここで取れるんだみたいなことは出来なくなってくるんじゃないかな。ただし、見やすくなってくれば、もうちょっと幅をもって我々も検討なりなんかしようかなってのがもう少し出てくると思います。やっぱり今おっしゃった両方が考えながら新しいステップに入ってくる時期が来てるんだなと思っております。よろしいでしょうかね？

< 所長 > 基本的に団体が増えているのは事実なんですね。逆に何故増えているかと、それは新しい団体が出来ただけではなくて、活動していない団体もそのまま残っちゃってるんですね。数だけは増えてる。新たな団体がどんどん出来ちゃうんですね。

例えばうちですと練馬駅から歩いて近いとなると、例えば 1 回利用のお客さんが登録しなくても使うこともかなり多うございます。その人たちが 1 回使ってみて「いいじゃないか」って言って団体登録されています。団体登録されて抽選資格があれば抽選に参加出来ちゃうわけですね。そうするとその人たちは 4 回の枠数全部でなくても 1 回だけ取ろうとしてもそれがたまたま一般の団体が定例で使っている曜日を取ってしまうことも多々あるんですね。我々からすれば生涯学習団体をいっぱい作りましょうよと言ってるんだけど、実は施設には限りがありますので。本当に似たような団体いっぱいあるんですね、それも 10 人ぎりぎりくらいの団体がですね。例えばそういう人たちがお話をさせていただいてね、ひとつの団体になればそれで枠が実は 4 枠埋まるんですけども、やはりなかなかみなさん个性的でございますのでそう簡単には…。

これはですね、行政からすれば、どんなシステムに切り替えても多分これは未来永劫続いていくんだらうなとは思うんですね。ですからそういうのはある程度は第三希望くらいまでに常にご用意いただいて、ここが駄目ならこっちにしようよとまず相談をされて、この日じゃないと出来ないっていうのは多分もうだいぶ厳しくなってくると思いますね。

ただ、今、午前午後夜間割り振りになってますが、それが例えば時間貸しになったりすればそれがまた切り替わってくる可能性がございます。それも合わせて 28 年度からどうするんだって話になるんでしょうけど、その辺が今利用者もそうだし、我々も悩ましいところだご理解いただければなと思います。

< 座長 > なかなか難しいですよ。

< 委員 > 同じことですが、夜間は比較的高齢化のためか空いているんですよ。午前中と午後というのがね。本当物事をするにはまず会場が第一条件になるわけなんですってね、本当に苦労します、利用者に立場からしますればね。いろいろ館の方もご苦労されてると思いますけれども、会場取るのが大変です。

<座長> 今おっしゃったように取るのも大変、取っていただく方も大変ということで、28年度になるまでにいろんなご意見を、練馬区全課を挙げてお調べになったり、会議でお話になってると思います。

<委員> でもうまくいく方法ってあるんでしょうかね？ 両方があれなんですか？

<座長> 私はこれもう本当にね難しい話だと思いますね。

<所長> やっぱ、高齢化になればなるほど夜間の利用は逆に減るもんなんです、で、日中の利用を…。ですからあとはもうちょっと例えば開館時間を早くするとか、まあ高齢者だから早起きだっというわけでもないんですけどね、

私ももうすぐ高齢者の仲間入りになりますし。でもそういうことも逆に必要なだろうなと思うんですよね。そうやって時間の幅をもっと広げるような。あとはもう主催事業を減らすしか無いので。

<委員> 各サークルで部屋を使っている時間帯ってだいたいわかるんですか？
時間として午後いっぱいってなってるけど、このサークルは2時間しか使わないとか。

<所長> だいたい例年見てるとわかりますね。午前中借りていても10時からしか来ないとか。そうすると9時～10時は必ず空いてると。そういう方たちは時間借りとなれば多分そういう借り方をしてくるんだろうなと思います。

<座長> ありがとうございます。あの、今時間貸しの話がかなり来てますよね、1時間単位でとか。昔だと午前午後夕方とか。ですからやはりその辺もね、今後調べていращやるんだろうとは思いますが、どうぞよい結果が出るよう祈ってます。
我々もそのように努力して。

それから委員になって黙ってるだけじゃなくて聞かれた時には「こんなお話になってるからこういうふうにそのうち出てくるんじゃないか」とか、「まあみなさんそういうけどここだけじゃなくて他の所空いている所も使ってみましょうよ」みたいなことを、ひとりにやったらふたりに伝わっていくといくらか違ってくると思いますので、みなさんの努力をお願いしたいと思います。

よろしゅうございますでしょうか？ 他になれば今度26年度の8月以降の事業の計画について所長さん、お願いしたいと思います。27ページでございます。

<所長> それでは平成26年度の事業計画についてご説明させていただきます。

所長より資料 5 をもとに説明

<座長> ありがとうございます。本当に 3 月までまたいろいろな事業が行われるよう
でございます。

みなさまいかがでしょうか？ ご意見なければ 26 年度後半事業計画については一度閉じ
たいと思います。よろしゅうございますでしょうか。

それでは 26 年度、これが初めての回でございますのでみなさまから一言ずついただき
たいと思います。いかがでございますでしょうか？

<委員> 初めて参加したのでよくわからないのですが、先ほどの会場の件なんかを見
ますと、第一・第二会議室と第一教室の違いというのは多分床のままか絨毯みたいなを
ひいてあるだけの違いだと思うのですが、それだけにも関わらず会議室の方が利用率
が低い。逆にいうと掃除なんかも考えてもリノリウムのままの方が使い勝手がいいんじ
ゃないかなという気がします。そうすれば存外また使い勝手も変わるんじゃないかと。

それからもう 1 点、定員に対して応募者数の多い講座がいくつかあるんですけど、そ
ういうものに関しては定員が 2 倍を越えるものについては同じ内容で 2 回開催してもい
いんじゃないかなというような気がするんですね。応募者が非常に多い場合は応募者に
直接案内を出して 2 回目同じ内容でやりますがいかがですかということであれば応募者
数がどんどん増えていくんじゃないかと思うんです。定員もいっぺんには増やすことは
出来ないとは思いますが、ただ応募者数が少ないものについてはまた意見は別です
けども、多い講座については考える余地があるんじゃないかと思います。以上です。

<座長> ありがとうございます。他にはいかがですか？

<委員> ちょっと私これを見てあれと思ったのですが、区報はですね、無論我々の日
本語版があってそれから英語版と中国語版があることは知っておるのですが、いわゆる
外国語版の方にはこの募集の内容というのは、こういう欄というのはあったのでしょ
うか。

<所長> いや、ないです。毎回出ているわけではないので...はい。

<委員> と申しますのはですね、そこでこう見てみますと、たまたま私ボランティアで
外国人に日本語教えておるんでございますけども、その人たちをやってても我々はまあ
何となく当たり前になっていることでも、ただ知らないこと、わからないことになっ
てくるとあれ？ っていうんで、ここの中に例えばその生け花の教室とか茶道の教室、歌舞
伎の会とかあるわけなんですね。で興味がある人はそういうものを見取ってもらえれば、

その同じ日本語を教える中においてもこういうことが元になっているんだっていうようなこともわかるようなこともあるものですから。もしそういうことが可能であればそういうふうな外国語の区報の中にもその辺の広報をなされたらいかがかなっていう気が今したものですから。割に練馬区の中にもかなりたくさん外国人がいますので、興味を持ってもらえればと思いますが。

ただ極端なこと言って、ここにある子ども生け花教室に外国人の人が、これ小学生ですが、入ってきたら教える方がちと困るよというようなことがあるかもしれませんし、その辺はいろいろ考えなきゃいけないことだと思いますけども。

なんかこうそういうふうなことで、それ以外のことにおいても何かあのそういうような外国人の人に対しても興味をもてるようなところの広報活動があってもいいんじゃないのかなというのをちらっと思ったものでございますので。

<座長> ありがとうございます。他はいかがでしょう？

<委員> 会場の利用実績ということで、何か塞がってきてるというお話もありましたが、私たちは一昨年あたりまでは順調にいつも月 2 回取れていたのですが、去年の後半から今年にかけて、一回ずつくらい同じところと、新しいグループが出来たんだろうと思うんですが、同じところと重なってしまうみたいで、午前午後使わせていただいたんですが午後が取れなくなってしまったという経過がありまして。でも抽選の結果が早く 2 月前にわかるので、先生の方をお願いして、再来月は取れていないと、今までちょっと人数多すぎて午前午後で先生おひとりで半日ずつ分けてたのですが、「一回でやらなきゃならないので全員で何か出来るものをお願いします」という形で普段のプログラムとちょっと変更した作品を作るように先生をお願いして乗り切っております。

<座長> ありがとうございます。工夫なさってるんですね。他にはいかがでしょう？

<委員> 先ほど外国語の話ですがホームページには翻訳ソフトとか入ってませんか？よくはわかりませんが、区報に情報が載っていればそれを翻訳して情報は得られるのではないかと思います。

生涯学習センターの事業は、公民館時代から変わっていない事業もあれば非常に進化した事業も多々あります。職員の方もほんとうにご苦労されて企画をされてるんだなって思っています。3回連続・4回連続の講座を組み立てるのは、事務職の職員がやるには非常に大変なことだと思います。時には私の方にもご相談いただければある程度のご支援が出来るかと思えます。

あと、講座のやり方については座学的なものが多いですが、今の世代の方は自分で意見を言いたい方が非常に多くなっています。ワークショップ、グル - プワーク的なゼミ

形式なものも少し取り入れられたら、さらによくなるのではないかと感想として思いました。

<座長> ありがとうございます。

<委員> 今、座・サポーターズというのを聞いて、僕も考えていたんですけど、ホールを使うのにはいいなと。

何故こんな発想になったかと言うと、例えば高等学校だとか中学校だとかのブラスバンド部だとかそういう人たちは発表の場がないんですね、1年に1回とかそういうのはあるんだけども。

それをこういう場で発表出来るようにして、そして父兄が来てくれる。その父兄が来ることによってまた生涯学習という裾野が広がってゆくこともあるだろうと思うんです。

何かそういう一石二鳥を狙ってですね、若い人たちは発表の場を持てる、それからそれによって聴衆として来てくれた親戚の人たちにまた生涯学習という意味合いを、何かまた違った意味の広がりを持ってもらう。まあそういう意味で。

何を言いたかったかということこの座・サポーターズというきっかけがありますので、学校と話をしてみる。いわゆる今までは生涯学習というと僕のイメージでは病院だとか養護施設だとかなんかそういう人たち、あるいは定年になった人たちが集まるようなところとの強いコンタクトというものを考えて、学校というのは学校に任せればいいというふうになってたけれども、むしろまた学校と生涯学習センターとの繋がりがっていうものをね、こんなものをひとつのきっかけにして何か連携が出来ていったら何か広がりのおかげになるかなとのいうふうな印象を受けました。

<座長> ありがとうございます。

<委員> 私もその座・サポーターズにすごく関心を持ちました。

今お話になったように実はうちの娘たちがもう大学出て、子育ても終わって家にいて、友達同士で電話をかけたりに集まって、そして今言ったようにいろんな、あなたはバイオリン弾けるからなんとか、あなたはなんとかが使えるとか今時の楽器をみんな持って、そういう友達が集まって、一か月に1回ずつやったりして、今はその友達の中にマネージャーつけたりして、友達同士でそういう発表の場とか探しているみたいなことを言っていましたんで、練馬に住んでいる方が多いグループなものですから、じゃあ話してあげようかな、そういうふうのがあるから練馬に聞いてみたら？って言おうかなって私思っています。

そしたら先ほどみんなお話になったんですけど、ほんとこれに期待持っています。歌だけ踊りだけじゃなくてもね、またその他演劇とかなんかもあるんじゃないかと思いま

すので是非これやってほしいです、前向きに。お願いします。

<座長> ありがとうございます。

<委員> 今回も引き続き、こちらの生涯学習センターの生涯学習は、0歳児の子どもの事業からわいわく倶楽部まで、ほんとにこう生涯オールラウンドに様々な事業を扱ってらして、職員のみなさまの努力には非常にこう関心をよさせられるところでございます。

今、座・サポーターズのところの話がずっと続いてきたわけなんです、私もこの事業がどういふふうに下半期展開をして、3月にどんな報告がなされるのか、非常に楽しみに思っております。

この出演者についてはオーディションで選出する、どんなオーディションをどなたが選出するんだろうっていう、何か必要があれば私に声を掛けていただきたくというようなことを思ったりしたような次第でございますが、ほんとにこう学校との繋がり、外国との方との繋がり、生涯学習がただ年齢層だけではなくて、非常もって横の広がりもだんだんこう創っていくことになる。こうまた新しい転機に来ているんだなということ非常に強く感じました。

<座長> 本当に力強いご意見いただいて所長さんも課長さんもうれしいじゃないでしょうか。で私からみなさまにご報告とご協力いただきたいと思っております。

私ども、練馬区と伝統工芸家、手工芸作家連盟、文化館と4つの団体でもう区報も出て30日から始まりますが、手工芸公募展というのをやりましたね、数はそんなに何百もありませんけどなかなか内容のいいものが出ておりますので、みなさまよろしかったらご家族とお友達お誘い合わせになって見てください。すごくいいものが出ています。

私、裾野を拡げたくてやりましたので、まだ2年目ですのですね、これは志村区長の時の肝いりから始めましてまだ2年ですから、それほど多く知られているわけではございませんが、内容的にはいいものが出ておりますのでお時間があつたらみなさんお知らせいただきながら参加していただきたい、見ていただきたい、ご批評いただきたいと思っております。

それから後1点ですね、これ教育委員会の方に言ったらいいんですかね、伝統工芸会にはお子さんがとても多く学校から参加なさってるんですが、手工芸作家展には場所の関係か邪魔しちゃ悪いとお思いになるのかな、お子さんがふるさと文化館なんか先生と一緒に来るんですけれども、あそこへは時間の制限があるんですかね、中をご覧になって、手工芸の方は先生がお入りにならないでさっさと行ってしまうという関係がございましてね、伝統工芸館みたいに広くないからかなと思っておりますが、我々の作品に対して悪いかな、いじっちゃいけないかなとかいろいろな配慮か、それとも学校の授業が何十分以内で文化館を全部説明して見ていかなきゃいけない制約があるかわかりませんが、

せっかくお子さんが来てる割に少ないということで、先生方あら、せっかくあの受付で待ってるんだけども時間でお帰りになっちゃうってことが出てますので、ひとりでも多くの方、多くのお子さん、これはあのやっぱり生涯学習っていうことの観点で始めますので、是非是非ご参加いただいて見ていただければありがたいと思っております。そうすると、なおなお我々もとてもとても励みになりますし学生さんにとっても、あ、こんなのが、自分たちにはいじってみたいやってみたいっていうものが探せるような気がします。

それこそコラボだと思っておりますので、ご年配の方もそうですがお子さまたちにも是非来ていただければありがたいと思っております。よろしく申し上げます。

あのひと通りご意見いただきましたが、最後になります、所長さんに、今年度ご意見を是非参考に入れていただければありがたいと思っておりますが、いかがでございますでしょうか。

< 所長 > 今いろいろご意見いただきました。部屋の利用につきましてはいろいろあるかと思えますけれども。座・サポーターズに期待を寄せていただいて大丈夫かなって言う（笑）まあ初めてのことでありますから。

言えますのは私どもが考えたものをやるのではなくて、みなさんが考えたものを私たちがお部屋を貸すことによって、みなさんの運営でいい事業にしてゆく。それが順調になればそれは定例でいけるわけですね。でまた新たなものを埋め込んでゆくって方式は、まあ先ほどもおっしゃったように場が欲しい人たちって結構いらっしゃると思うんですよ。特にクラシックなんかでも、もう何千人、何万人といるクラシックの中でもそれで飯を食える人なんかはほんの僅かなんですよ。でも残った人たちは場所があれば是非演奏したい、まあ我々のアマチュアコンサートでもそうですけど、やっぱり我々が場所をどうぞと言えば多分手を挙げてくれるんじゃないかな、かなり安易な考え方ではありますけれども。でもそこでもし誰かが来れば そこからまた口コミで、どんどん増えていくんじゃないかなと思います。

そういった事業を増やしていくべきじゃないかなと思っておりますので。

我々も 3 月にどんな報告が出来るかわかりませんが、ちょっと気合いを入れてやっていきたいなと思います。本当に今日はありがとうございました。

< 座長 > 本当に多くのご意見いただいてもうそろそろ時間となりましたけど、そちらの方でご意見なければ閉めさせていただきたいと思えます。

< 副座長 >

いろいろ長時間に渡りまして熱心なご意見ありがとうございました。

ではこれで閉めさせていただきます。